

震災後の松川浦におけるマアナゴの分布、サイズ及び性比

福島県水産試験場 相馬支場

1 部門名

水産業－資源管理－その他魚種(海)

2 担当者

和田敏裕・岩崎高資・成田薫

3 要旨

東日本大震災前の福島県におけるマアナゴの漁獲量・漁獲金額は約 500 トン・5 億円であり、マアナゴは本県における重要な水産資源である。本県唯一の内湾である松川浦では本種の稚魚～成魚が採捕されており、松川浦は本種の成育場及び索餌場としての機能を果たしていると考えられる。なお、外洋で漁獲されたマアナゴはほぼメスで占められるのに対し(石田ら 2003)、松川浦で採捕されたマアナゴの性比は外洋に比べてオスの割合が高いことが報告されており(根本 2007)、松川浦はマアナゴの生活史にとって重要な機能を果たしていると考えられる。

本課題では、震災後の松川浦においてアナゴカゴを用いた採捕調査により明らかにされたマアナゴの分布、サイズ及び性比について報告する。また、震災前後におけるこれらの変化を報告する。

- (1) 2012 年 11 月以降、松川浦内 10 地点において 1 地点につき 4 個、合計 40 個のアナゴカゴを 24 時間設置する月 1 回の調査を周年行った。採捕されたマアナゴの精密測定を行い、震災前後でのサイズや性比の変化を比較した。震災前のデータは 2004 年 11 月～2005 年 11 月にハモドウでマアナゴを採捕した根本(2007)を参照した。
- (2) マアナゴは浦内全域で採捕されたが、北部で採捕尾数が多く外海との交流が示唆された。採捕尾数は、秋季および春季で多く、冬季および夏季に少なかった。冬季および夏季における松川浦の水温は、マアナゴの活動適水温(10～23℃)を外れており、当該時期における浦外への移出、あるいは浦内での活動の低下が考えられた。
- (3) 震災前は、全長 40cm 前後の個体が最も多く、60cm 以上の個体の割合は 3%と極めて低かったが、本調査で採捕された個体の約半数は全長 60cm 以上の大型個体であった。
- (4) 震災前のマアナゴ雄の割合は 55%と高かったが、本調査で採捕された雄の割合は 3%と著しく低かった。
- (5) 本調査により、震災後、松川浦を利用する大型の雌が増加した可能性が示された。今後、春季および秋季に大型のマアナゴが松川浦で多く採捕される要因について、外洋のマアナゴの情報とともに検討する必要がある。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～25年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究(松川浦に生息するマアナゴの生態特性の解明)
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

石田敏則・山廻邊昭文・後藤勝彌・片山知史・望岡典隆: 常磐海域におけるマアナゴについて、福島水試研報、11、65-79(2003)。

根本芳春: 福島県松川浦におけるマアナゴの性比について、福島水試研報、14、37-40(2007)。